

明 表 信 所

令和 8 年 1 0 月

根 室 市

I	はじめに	1
II	基本姿勢	2
III	政策目標とその展開方針	4
	強く、活力ある産業をつくる	4
	安心実現、子育て・医療・福祉の充実	7
	くらしを支える、物価高への対応	8
	未来を拓く、人づくり・文化の継承	8
	巨大地震対策の強化	9
	北方領土対策の再構築	10
IV	むすび	11

I はじめに

令和8年根室市議会10月定例会月議会の開会に当たり、今後4年間にわたる市政運営に対する所信を述べさせていただきます。

このたびの第19回市長選挙におきまして、市民皆さまからの信託を受け、引き続き根室市長として4年間の市政を担わせていただくこととなりました。

身に余る光栄であると同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私が市長に就任してからの2期8年、コロナ禍、長引く物価高騰、主要水産物の漁獲不振や自然災害への備えなど、さまざまな課題に直面する中、各種施策を進めることができましたのは、市民皆さま、事業者の皆さまの温かいお力添えと心強い応援の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。

来年は、市制施行70周年という記念すべき年を迎えます。

この街に刻まれた歴史と先人たちが繋いでくれた大切な想いを引継ぎながら、「共創のまちづくり」を推進力として、希望あふれる根室の未来を切り拓き、「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らす」ことができるまちの実現に向け、全力で市政運

営に取り組む決意であります。

市民皆さま並びに市議会議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

Ⅱ 基本姿勢

はじめに、基本姿勢について申し上げます。

私の政治理念は、「温故拓新」であります。

先人が大海に漁場を拓き、産業を興し、まちを築いてきた歩みに学び、その中で培われてきた歴史、文化、産業、そして根室人としての誇りを大切にしながら、新しい時代を切り拓いてまいります。

8年前、「市民誰もが住み慣れた根室で生き生きと暮らす」という思いを胸に、市長の職を託されました。

この間、ふるさと納税を通じた応援や民間投資の広がりのほか、子育て、教育、福祉、防災、領土問題など、暮らしの根幹に関わる政策を一つひとつ前に進めてまいりました。

一方で、人口減少や少子高齢化に伴う担い手不足、地域医療の確保、公共施設の老朽化、交通・生活インフラの維持など、将来にわたり持続可能なまちであり続けるための課題はなお山積し

ております。

加えて、国際情勢の不透明さや食料安全保障の重要性の高まり、エネルギーや資材価格の高騰など、地域経済を取り巻く環境も大きく変化しています。

現場の「悩み」、「痛み」、「喜び」をいち早く感じとることができる、基礎自治体として、しっかりと声に耳を傾け、丁寧に判断し、責任を持ってやり抜く市政運営が大切であります。

職員と大切な想いを分かち合い、対話と説明を重ねながら、議会の皆さまとも議論を交わし、地域一丸となって進めてまいります。

また根室は、日本の食料安全保障を支える最前線であり、同時に北方領土返還要求運動の原点の地であります。

さらに、日ロ交流発祥の地としての歴史を持つ、他に代えがたいまちでもあります。

こうした根室ならではの地政学的、歴史的な強みをしっかりと活かし、定住人口の維持に加え、交流人口、関係人口の拡大につなげてまいります。

「根室市が将来にわたり発展し続けるために」、「誰もが誇りと愛着をもって暮らせるまちづくりのために」、強い「水産都

市・根室」の再興を成し遂げ、持続可能な地域社会の実現に向け、果敢に挑戦してまいります。

Ⅲ 政策目標とその展開方針

次に、政策目標とその展開方針について申し上げます。

3期目においても、これまでの基本方針を継承しつつ「強く、活力ある産業をつくる」、「安心実現、子育て・医療・福祉の充実」、「くらしを支える、物価高への対応」、「未来を拓く、人づくり・文化の継承」、「北方領土・巨大地震対策の強化」を柱に各施策を着実に進めてまいります。

（強く、活力ある産業をつくる）

はじめに「産業・経済」についてであります。

本市の発展は、北洋漁業の開拓以来、漁業を中心とする水産都市としての営みに支えられてまいりました。

今日においても、根室の力の源は、海と大地、そしてそこに携わる人々のたゆまぬ営みにあります。

強い「水産都市・根室」の再興こそが、地域の活力と人々の笑顔と活気を生み出し、持続可能な地域社会の実現につながるも

のであります。

漁業については、「つくり育てる漁業」を着実に推進してまいります。

ホタテ漁業の経営安定化を図るとともに、ウニなどの増養殖、昆布やサーモン等の海面・陸上養殖の試験・技術開発、新たな養殖事業への挑戦を支援してまいります。

特に、昆布養殖をはじめとする新たな沿岸漁業は、これからの根室の海を支える重要な柱であり、地域資源を活かした付加価値の高い水産業の育成を進めてまいります。

あわせて、長期かつ安定的な国際漁業の枠組みの堅持に向け、国に強く要請するとともに、根室の水産業が国内の食料供給、食料安全保障を支える最前線であることを踏まえ、漁業者が将来を見通せる環境整備に向け、国にしっかりと求めてまいります。

農畜産業については、生産性の向上と収益性の確保が不可欠であります。

歯舞婦羅理オンネップ線整備など、生産基盤の整備を進め、輸送環境や営農条件の改善を図るとともに、担い手確保、後継者対策、若年就業者の定着化を促進してまいります。

商工業については、企業立地・誘致を積極的に進め、地域経済

の活性化と雇用機会の創出を図ってまいります。

「企業立地促進支援制度」を活用しながら、税制優遇や助成、遊休地活用などを組み合わせ、市内への新規投資を後押ししてまいります。

あわせて、中小企業で働く外国人技能実習生等と市民との交流機会の拡大など、外国人技能実習生等が安心して暮らせる環境の整備を進めるとともに、「共創のまちづくり元気ファンド」による地域活性化に向けた取組を支援し、中心市街地・ＪＲ根室駅前の賑わい創出や魅力ある商店街づくりを進めてまいります。

観光については、2030年の「（仮称）野付半島・風蓮湖・根室半島」国定公園化を見据え、「春国岱自然散策路」や「落石岬木道」など、自然資源を活かした受入環境整備を進めてまいります。

さらに、「日本一涼しいまち・根室」の魅力、野鳥観光、ネイチャーウォッチング、ＪＲ花咲線や観光周遊バスとの連携、地元クルーズ活用など、根室ならではの体験価値を磨き上げ、国内外からの誘客を進め、交流人口の拡大を図ってまいります。

あわせて、ふるさと納税等を通じて根室を応援してくださる全国の皆さまとの繋がりを大切にし、地場産品の魅力発信と消費拡大を進めることで、関係人口の拡大に繋げてまいります。

そして何よりも、産業を支えるのは人であります。

地域産業を担う人材の確保・育成・地元定着を図り、若者が根室で働き、暮らし、夢を持てる環境を整えてまいります。

強い産業なくして、安心ある暮らしは成り立ちません。

そのためにも、このまちの基盤である産業の再興に、最優先で取り組んでまいります。

（安心実現、子育て・医療・福祉の充実）

次に「子育て支援・医療・福祉」についてであります。

「幸せづくりの応援」。

すべての市民が健やかに育ち、安心して、生きがいと希望を持って暮らせる「温もりあるまちづくり」を進めます。

子育て支援については、こども医療費の無償化をはじめとする「子育て応援七つの無償化」を継続・拡充するとともに、新たな支援策を講じ、子育て世代の負担軽減を図ってまいります。

また、地域医療体制の安定のため、医師や看護師など医療従事者の確保対策を推進するとともに、市民の健康を守り、感染症の重症化や流行を防ぐため、予防接種費用の助成制度の拡充を図ってまいります。

高齢者福祉については、市民要望の高い「老人福祉センター（じゅげむ荘）」の整備を着実に進めるとともに、地域包括ケアシステムの深化を図り、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる支援体制の充実を図ってまいります。

（くらしを支える、物価高への対応）

次に「物価高への対応」についてであります。

原材料費やエネルギー価格の高騰が続き、物価高の影響が市民生活や地域経済に及んでおります。

経済情勢を慎重に見極め、国の政策との連動性を図りながら、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受ける市民や市内事業者に対し、必要な対策を講じてまいります。

（未来を拓く、人づくり・文化の継承）

次に「教育・文化」についてであります。

まちづくりは人づくりであります。

子どもたちの教育環境の充実、生涯学習の推進、芸術・文化・スポーツ活動の振興に取り組み、豊かな心と感性を育むまちをつくってまいります。

子どもたちにより良い教育環境を確保することはもとより、少子化の進行に伴う学校規模の適正化や小中一貫教育の充実を図るため、教育委員会と連携し、北斗・柏陵校区の義務教育学校の整備と市街地区における義務教育学校化を推進してまいります。

子どもたちの健やかな成長を支え、保護者の経済的負担の軽減と地産地消や食育の推進を図るため、「学校給食の無償化」と「ふるさと給食」を継続するとともに、民間活力の導入による給食施設の整備を促進してまいります。

将来の根室を担う若者が、学びを通じて自らの可能性を広げ、進学や就職に向けて必要な力を身につけられるよう、根室高校生への資格取得支援や通学費支援を継続し、次代を担う人材育成を進めてまいります。

市民の健康増進や交流の促進、スポーツ活動の振興を図るとともに、多世代が集い活躍できる拠点となる総合体育会館の整備を推進してまいります。

（巨大地震対策の強化）

次に、「巨大地震対策の強化」についてであります。

根室市にとって巨大地震・津波への備えは喫緊の課題であり、被害を最小限に抑え、市民の生命と財産、暮らしを守るため、「津波防災地域づくり推進計画」に基づき、避難体制の強化をはじめとする防災・減災対策を総合的に進めてまいります。

大規模災害時の孤立を防ぐためにも、花咲港地区の津波避難道路整備や、「命の道」としての国道44号根室防雪、根室延伸に向けた高規格道路の整備促進を国に強く求め、地域の安全と物流を守るためのインフラ整備を進めてまいります。

また、先般の断水を踏まえ、水源の確保などにより安定的な水の供給を図るとともに、廃棄物処理施設の整備を進めてまいります。

あわせて、「空家対策」と高齢者や子育て世帯への居住支援の強化など住宅政策を推進し、暮らしを支える都市基盤・生活環境の整備を進めてまいります。

（北方領土対策の再構築）

最後に「北方領土対策」についてであります。

北方領土問題の解決は、根室にとって歴史的使命であり、決して置き去りにしてはならない課題であります。

日ロ関係が厳しい状況の中にあっても、北方領土返還要求運動「原点の地・根室」としての責務を果たし続けてまいります。

若い世代への啓発、後継者育成、関連施設の保存と活用を進めるとともに、北方墓参の早期再開、北方四島との交流再開、北方領土隣接地域グランドデザインの着実な推進など、国に対して強く要請してまいります。

さらに、内政措置の拡充や地域振興対策の強化を求め、隣接地域としての役割と責任を果たしてまいります。

IV むすび

以上、今後4年間の市政運営につきまして、私の所信の一端を述べさせていただきました。

本市におきましても、全国的な課題となっている人口減少問題や巨大地震をはじめとする切迫する自然災害への対応など多くの課題に直面しています。

明治2年の開基以来、私たちの先達は、厳しくも豊かな大自然の中で、不屈の開拓精神をもって根室を築いてきました。

この歴史の重みと先人たちの足跡と揺るぎない志に改めて深い敬意と感謝を捧げるものであります。

根室は、自然、海、文化、歴史、そして何よりも人の力に支えられてきたまちであります。

先人の歩みに学び、その志を受け継ぎながら、次の世代へとつないでいくことが、今を生きる私たち、そして市長としての重要な責務であります。

この歴史のバトンを受け継ぐ私たちが持つ可能性と強みを活かし、産業に「強さ」を、くらしに「安心」を、そしてまちにたくさんの「笑顔」を花開かせるため、市民皆さま一人ひとりの思いに寄り添い、地域の力を結集しながら、愛する故郷・根室の未来を確かなものとしてまいります。

最後に、市政運営への市民皆さま並びに市議会議員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、市長3期目にあたりましての所信表明といたします。